

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	○社研究開発・本社ビル	階数	地上7F
建設地	京都府向日市	構造	SRC造
用途地域	商業地域、準寒冷地	平均居住人員	600 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年8月 予定	評価の実施日	2010年6月21日
敷地面積	9,917 m ²	作成者	平岡 雅哉
建築面積	4,472 m ²	確認日	
延床面積	16,320 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 4.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.8

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 4.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 ・グローバルNo1の健康医療研究開発拠点の実現 ・グローバルカンパニーとしての社会に開かれた企業の構え ・クリエイティブな発想を触発する研究開発の場 ・内部と外部が一体となった心地よい職場環境		(注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 ・東側窓面への可動日射遮蔽ルーバーとバルコニーの庇効果による熱負荷低減 ・自然換気による自然エネルギー利用 等	Q2 サービス性能 ・ゆとりある執務スペースの確保 ・全館バリアフリー対応 ・メカニカルバルコニー設置による、設備の更新性の向上	Q3 室外環境(敷地内) ・屋上や外構の緑化によるヒートアイランド緩和 ・良好な景観の形成、
LR1 エネルギー ・高効率ヒートポンプ空調機器の採用 ・太陽光発電による自然エネルギー利用	LR2 資源・マテリアル (注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・仕上げ材、下地材共F☆☆☆☆を使用	LR3 敷地外環境 空冷HP機器への微細水噴霧による排熱の低温化と機器効率向上、

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい